

大会決議

2012年6月、日米両政府は海兵隊次期主力輸送機として垂直離着陸輸送機MV22オスプレイを2012年10月に普天間飛行場に配備すると正式に発表した。

MV22オスプレイは、開発段階から事故が多発し、去る4月11日にアフリカのモロッコで2人が死亡、2人が重傷を負う墜落事故が発生。さらに、6月13日にも米国のフロリダで5人の負傷者を出す墜落事故を起こしたばかりであり、安全性の問題が強く指摘されている。

米国の環境調査の詳細データによると、MV22オスプレイの想定される飛行ルートには、南風原町の上空も見込まれていることから、町民の命を危険にさらすものであり、到底容認することはできない。

また、普天間基地にMV22オスプレイが配備されることは、基地の機能強化及び固定化につながるものであり、断じて受け入れできるものではない。

そもそも、普天間飛行場の移設問題の本質は、住宅地の中心に存在する「世界一危険な」同飛行場の早急な危険性の除去にある。世界一危険な普天間飛行場に、墜落死亡事故が多発している危険極まりないMV22オスプレイの配備計画は、まさに「危険性の機能強化」であり、断じて許されるものではない。

日米両政府は、我々町民及び県民のオスプレイ配備反対の不退転の決意を真摯に受け止め、オスプレイ配備計画を直ちに撤回し、同時に世界一危険な米軍普天間基地の即時閉鎖・早期返還、沖縄県の基地負担軽減を着実に実施することを強く要求する。

以上決議する。

2012年9月14日

オスプレイ配備に反対する南風原町民大会